

## カラカミ遺跡

壱岐の北西部、片苗湾に近い丘の上にあるカラカミは、紀元前後に島で最も大きな集落の一つであった。その人々は漁業、狩猟、鉄工で生計を立てていたと考えられている。

鉄くずや炉の遺構などの考古学的発見から、カラカミ集落の人々は古代の朝鮮半島と日本本土の鉄の交易の仲介役を担っていた可能性がある。日本より早く鉄の生産技術が発達していた朝鮮半島から鉄の素材を入手し、それを改良・補強して九州などで販売したと考えられる。カラカミと朝鮮半島との関係は、集落跡から発見された朝鮮半島産の土器が証明している。

また、日本最古のイエネコの骨が出土していることから、高度な製鉄技術を日本に伝えただけでなく、身近な愛玩動物の持ち込みにも一役買っていた可能性がある。